受付
29.6.26
No.

茨労発基0622第１号
平成29年６月22日

関係団体等の長　殿

茨　城　労　働　局　長
（公印省略）

平成２８年の職場における熱中症による死傷災害の発生状況について

安全衛生行政の推進につきましては、日頃から格別の御配慮をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、職場における熱中症予防対策については、平成21年６月19日付け基発第0619001号「職場における熱中症の予防について」（以下「基本対策」という。）により示しているところですが、今般、平成28年の全国の職場における熱中症による死傷災害の発生状況については、下記及び別紙１のとおりとなっています。

気象庁の暖候期予報によれば、平成29年の暖候期（６～８月）は、全国的に気温が平年並みか平年より高くなることが予想されていることから、熱中症による労働災害が多く発生することが懸念されるところです。

平成29年の職場における熱中症予防対策については、平成29年3月10日付け基安発0310第2号「「STOP！熱中症クールワークキャンペーン」の実施について」（別紙２。以下「キャンペーン通達」という。）の実施要項に基づく事項において留意すべき事項を示しておりますので、貴職におかれましては、平成28年の職場における熱中症による死傷災害発生状況を参考にしていただき、基本対策及びキャンペーン通達に基づく職場における熱中症予防対策に一層の取組をいただくとともに、関係事業場への周知等について特段の御理解と御協力をお願い申し上げます。

記

平成28年の職場における熱中症による死傷災害発生の概要

１．全国の熱中症による死傷災害発生状況について

平成28年の職場における熱中症による死亡者及び休業４日以上の業務上疾病者の数は462人と依然として高止まり状態にある。また、死亡者数は12人と、平成27年よりも17人減少した。そのうち、建設業において死亡者数は７人であり、平成27年度と同様に高い割合を示している。

気象庁の発表によると、平成28年は、沖縄・奄美を中心に７月後半の気温が高かった。８月になると、日本付近が暖かい空気に覆われたため、月平均気温は全国的に高く、沖縄・奄美ではかなり高くなった。

平成28年に熱中症により死傷した462人のうち、271人が７月21日から８月末に被災している。また、死亡した12人のうち、２人が７月に、６人が８月に被災している。

死亡した12人に係る災害の発生状況等をみると、ＷＢＧＴ値（暑さ指数）の測定は12人の災害発生場所においてなされていなかった。

また、熱への順化期間（熱に慣れ、当該環境に適応する期間）の設定は９人においてなされていなかった。さらに、事業者による水分及び塩分の準備は８人、健康診断の実施は５人においてなされていなかった。

２．茨城の熱中症による死傷災害発生状況について

平成28年の熱中症による死亡者及び休業４日以上の業務上疾病者の数は10人と、平成27年より

も3人減少した。平成20年以降は、平成26年の30人が最も多い。また、死亡者数は平成22年と平成25年の3人が最も多く、平成28年は０であり、ここ数年は発生していない。

業種別では建設業と製造業での被災が多く、これらで全体の約6割を占めており、月別では7～8月、時間帯別では午後3時台に多く発生している。

また、日中の作業終了後に帰宅してから体調が悪化するケースも散見されるため、熱への順化期間（熱に慣れ、当該環境に適応する期間）を十分に確保するとともに、作業中に異常を感じたらすぐに病院に連れて行くか、救急隊を要請することへの配慮も重要である。